西田昌司参議院議員による沖縄戦の実相と史実を歪め、否定する発言への抗議決議

憲法記念日の５月３日、那覇市内で開催された「憲法シンポジウム」において講演を行った自民党の西田昌司参議院議員は、ひめゆりの塔の展示説明に触れ「日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆりの部隊が死ぬことになった。そして米国が入ってきて、沖縄が解放されたと、そういう文脈で書いている。亡くなった方々は救われない。歴史を書き換えられることになる」と発言した。これは、甚だしい認識錯誤であり、沖縄戦の実相と沖縄県民の証言、戦後沖縄の歩みなどの歴史の事実を歪曲するもので、本市議会は激しい憤りをもって抗議する。

沖縄戦に動員され犠牲になった女子生徒らを追悼するひめゆりの塔の前にある石碑に刻まれた「ひめゆりの塔の記」をはじめ、そばに建つ「ひめゆり平和祈念資料館」の展示内容にも、西田氏発言のような記述は過去にも現在にも存在の事実はなく、「ひめゆり平和祈念資料館」関係者も明確に否定している。 西田氏は９日、「ひめゆりの塔」に関する発言を巡り、「不適切だった。沖縄県民におわび申し上げ、訂正、削除する」と訂正したが、発言そのものは事実で間違っていなかったと言い張り、「ＴＰＯ（時・場所・場合）をもう少しわきまえるべきだった、配慮が足らなかった」と釈明した。

また、西田氏は「沖縄戦は、民間の方もたくさん犠牲になられたが、それを助けるために日本軍が行った」「沖縄の方、同胞を守るために先人が戦っていた」と指摘、沖縄に駐留した日本軍第 32 軍は、県民を守るため米軍に決死の戦いを挑んだと主張し、沖縄戦犠牲の美化につながりかねない歴史観を披露している。

これに対し、沖縄戦体験の証言や研究から明らかになってきた沖縄戦の事実は、国体護持を至上命令とする日本軍が 1944 年に配備され、本土決戦を遅らせるため沖縄で時間稼ぎの「戦略持久戦」を続け、日本軍によって旧制中学校や旧師範学校の生徒が、ひめゆりをはじめとする学徒隊や鉄血勤皇隊などとして戦場に駆り出され、多くの犠牲を出したこと。さらに、首里城の地下に造った司令部を放棄し、住民が避難していた本島南部に撤退した結果、軍民混在の状況の中、住民を巻き込んだ激しい地上戦となり、住民の命が奪われた。これらは日本軍の作戦による犠牲であることは紛れもない歴史の事実である。沖縄戦の最大の教訓が「軍隊は住民を守らない」とされてしまう理由はそこにある。

西田氏の一連の発言は、軍人よりも一般住民の犠牲者がはるかに上回っている沖縄戦の凄惨な経過や被害、犠牲という事実に対してあまりにも不誠実な態度であり、歴史を都合の良いように「書き換えるかのような」姿勢は断じて許されるものではない。また、「沖縄の場合は、地上戦の解釈を含めて、かなりめちゃくちゃな教育のされ方をしている」との発言も決して看過できない。

よって、本市議会は、沖縄戦の実相と沖縄県民の証言、沖縄の戦後の歩みなどの歴史の事実を歪曲する西田昌司参議院議員の発言に怒りを込めて抗議し、真摯な謝罪と撤回を強く求めるとともに、戦後 80 年を機に西田氏のような認識を持つ全ての方々が沖縄に足を運んで、この沖縄戦の実相、”沖縄のこころ”、戦争体験に基づいた沖縄県民の恒久平和への強い想い、米軍支配に抗った沖縄の歴史を真摯に正しく学び、認識を改めていただくよう強く望むものである。

以上、決議する。

令和７年（2025 年） ５月 22 日

那 覇 市 議 会

あて先：西田昌司参議院議員、自由民主党本部